

Motto いつでも 誰でも 安心してかけられる病院

あなたに贈る健康へのメッセージ—— 知ってください病院のこと、身体のこと

# 医科大どおり

白峰 桑島 雪だるままつり



【表】2008 季刊誌第13巻第4号 発行/金沢医科大学病院 編集/金沢医科大学病院二コース編集委員会

### 病院運営の基本方針

1. 患者さま中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さま・ご家族への“説明と同意”を徹底します。
4. 高度先進医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

### 患者さまの権利

当院は、医療の中心は患者さまであると認識し、患者さまには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望される時は、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。

### 患者さまへのお願い

当院は、大学病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さまには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話ください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さまの迷惑にならないようご配慮ください。
- 当院は教育・研修施設として医学生・看護学生等の臨床教育実習を行っておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

## はじめまして

初めての出産は、妊娠中からいろいろな不安と喜びにあふれていました。また、一人の子どもが生まれてくるまでに、こんなにたくさんの方々の支えがあったのだということも初めて知りました。家事や精神的な支えになってくれた夫や双方の両親はもちろん、妊娠中は職場の上司、同僚の方々にも助けられ、無事和馬を産むことができました。また医師、助産師、看護師の方々にも検診や出産時、産後の入院中にたくさんのアドバイスをいただきました。初めてのことはばかりで、わからないことも沢山ありますが、支えていただいた方々への感謝の気持ちを忘れず、生まれてきた我が子を大切に育てていきたいと思えます。



ひろさわ 廣澤さん

おとうさん  
健吾(けんご)さん  
おかあさん  
雅代(まさよ)さん  
赤ちゃん  
和馬(かずま)ちゃん  
平成19年11月15日生  
2,938g 男の子

### 石川の祭シリーズ まめ知識

## 白峰・桑島雪だるままつり

白峰・桑島地区の住民一人ひとりが手掛けた雪だるまが、一軒一軒の軒下や通りいっばいに並びます。大きなものから小さなもの、キャラクターものから童話を思わせるものまで、趣向をこらした雪だるまが観光客の目を楽しませてくれます。夕方薄暗くなる頃、すべての雪だるまにろうそくが灯されると、幻想的な世界が広がります。とちもち、ぜんざい、温泉粥、めった汁など地元素材を活かした食べ物が振る舞われ、まつりが一層盛り上がり。昼から夜に様変わりする雪だるまをお楽しみください。

### 編集後記

昨年は、世界的に災害が多発し地球温暖化と共に私たちの暮らしに暗い影をおとしています。2007年3月には能登半島地震で、私の親戚や近所の家が壊れ、実家もダメージを受けました。近年、殺伐とした世の中と言われているようですが、そんな中で今回の震災では、地区における人の温かさやボランティアで来られた方のやさしさに触れる事が出来とても感激しました。

2008年こそは良い年であるようにと祈らざるには居られません。(記：才願 則夫)

院内にご意見箱を設置しております。みなさまの「声」をお聞かせください。



金沢医科大学病院

### 病院の理念

私たちは「生命への畏敬」を医療活動の原点として次のような病院を目指します

- 患者さま中心の安全で質の高い医療を提供します。
- 人間性豊かで有能な医療人を育成します。
- 新しい医療の研究・開発を推進します。
- 地域の医療機関と協力し地域の医療福祉の向上に貢献します。

## 白内障／眼科

### 『白内障－新しい診断法と手術治療』

眼科  
教授 佐々木 洋

白内障は眼のなかにある「水晶体（すいしょうたい）」というレンズが濁るため、見え方が悪くなる病気です。50歳で10%、60歳で40%、70歳で70%、80歳では95%以上でみられ、超高齢化社会を迎えた日本では誰もがなる可能性がある病気です。

#### ■視力ではなく見え方の質が大切

白内障になると「見え方の質」が悪くなります。これまで、見え方の評価は視力検査で行っていました。たとえば、検査で矯正視力（眼鏡をかけた視力）が(1.0)であった場合、眼科では「よく見えている」と判断され、手術などの治療の対象になることはほとんどありませんでした。しかし、視力検査ではC（ランドルト環）の切れ目がわかれば良いので、同じ(1.0)であってもハッキリした(1.0)、輪郭がぼけた(1.0)、二重にダブって見える(1.0)など、すべて(1.0)として判定されます（図1）。白内障の場合は、実際は「質の悪い(1.0)」になっています。また、視力検査は明るい部屋で輪郭のはっきりした指標の見え方から視力を判定しますが、日常生活では薄暗い所、眩しい所、輪郭や濃淡のはっきりしない物など、様々な環境で物を見なければなりません。これを「生活視力」（コントラスト検査）と言います。白内障になると、視力は良くても「生活視力」は低下します。当科では、様々な環境下での「生活視力」の検査を行い、患者さまの見え方の質を評価しています。

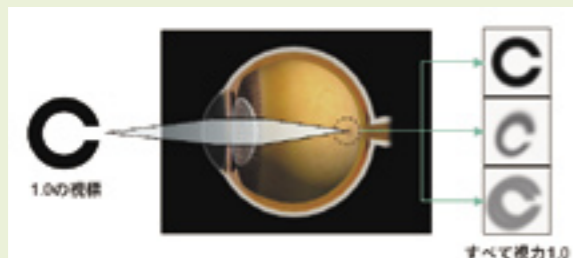


図1: 視力と視覚の質  
(網膜像: 網膜に映る像の質)

#### ■白内障の症状と手術の時期

以前はかなり白内障が進行して生活が不自由になってから手術を行いましたが、手術療法が非常に進歩したので、最近はある程度見えていても日常生活に支障があれば手術を行うことが

多くなりました。初期白内障の自覚症状としては、暗い所や夕暮れ時での見え方が悪い（運転がしにくい）、明るいところで以前より眩しく見えにくい、階段の段差が分りにくい、本読むのに以前より時間がかかり疲れやすい、などがあります。このような症状がある方は、見え方の質が落ちており、原因として白内障が隠れていることが少なくありません。当科では患者さまの見え方の質を、様々な方法で評価し、総合的に手術の時期を判定します。実際の見え方をシミュレーションし、患者さまにご説明しています（図2）。

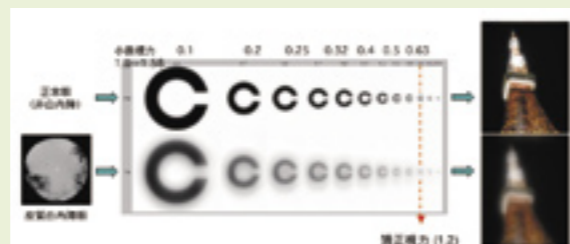


図2: 皮質白内障眼の網膜像シミュレーション  
症例: 77歳、女性、矯正視力 (1.2) / 計測処理: PSF-1000 (トブコン)

仮に視力(1.2)であっても、見え方の質が落ちており、手術による改善が十分期待できると判断した時は、患者さまに手術を勧めています。一方、自覚的に見え方が悪くても、検査結果から手術での回復がそれほど望めない患者さまには、その理由をご説明し、手術をしないで眼鏡やサングラス、拡大鏡など、ほかの方法を選択することもあります。

#### ■眼内レンズの進歩

当科での白内障の手術は2.5mm前後の切開で行っています。手術は局所麻酔（ほとんどは点眼麻酔）で行い、超音波で濁った水晶体の中身を破碎、吸引し、代わりに直径6mm程度の眼内レンズを入れます。痛みはほとんどありません。従来の眼内レンズのほかに、最近では夜間や夕暮れの見え方が良いレンズや太陽光から眼の奥の網膜を保護する黄色のレンズも積極的に使用しています。眼内レンズは患者さまの眼球の形に合ったものを入れることが重要で、当科では年間1,000例以上の白内障手術を行っておりますが、全ての患者さまで術前に多くの検査を行い最も眼にあったレンズを選択し、精度の高い手術を行っています。（記: 佐々木 洋）

## 専門看護師（老人看護）／看護部

### 『北陸初 老人看護の専門看護師誕生』

看護部  
部長 宮本 孝子

#### ■専門看護師とは

日本看護協会は専門看護師を「複雑で解決困難な看護問題を持つ個人・家族や集団に対して、水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の看護専門分野の知識・技術を深めた看護師」と規定しています。専門看護師の専門分野としては、以下の9分野「がん看護」「精神看護」「地域看護」「老人看護」「小児看護」「母性看護」「慢性疾患看護」「急性・重症患者看護」「感染症看護」が特定されています。その、具体的な役割として、「実践」「相談」「調整」「倫理調整」「教育」「研究」という6つの機能を果たすとしています。

老人看護の専門看護師は、今年度の合格者3名(当院直井を含む)を加え、全国で13名となりました。

#### ■老人看護の専門看護師の役割とは

急性期医療の現場では、医療の高度化に伴い、侵襲的手術や治療を受ける高齢者が多くなっています。しかし、身体的に予備力の低下している高齢者は、高齢者特有の合併症が出現しやすくなり、高齢者の特徴を踏まえた看護が必要になります。また、近年の医療情勢から、在院日数の短縮化により医療依存度の高い患者さまについても、早期の退院が求められるようになってきました。高齢者を取り巻く、医療・福祉情勢を把握して、必要なケアが継続できるように地域との連携が不可欠です。

老人看護の専門看護師が対象とするのは、若いながら生活し、病み、死を間近にしている



方や高齢者をとりまく家族や地域などの集団です。高齢者が『自分らしく』生きるための権利を守ることを、高齢者を抱える家族の満足度を高めることが老人専門看護師の大きな目標です。

厚生労働省が3年に1回、全国の医療施設に行う患者調査から、入院患者の6割、外来患者の4割が65歳以上の高齢者となっています。つまり、小児科・産科以外の病院で勤務する看護師は、高齢患者さまと接する機会が多くなるということになります。そこで、高齢者に看護を提供する人たちへの教育や相談といった役割も重要になります。さらには、専門的知識や技術の向上・開発のための研究を行いながら、看護の質の向上を果たしていくことも必要です。

専門看護師としては、資格を取得しスタートラインに着いたばかりです。今後、高齢患者さまの声(心の声も)を大切にしながら、できることから活動を始めていくところです。どうぞよろしくお願いたします。

(記: 看護師長 直井 千津子)

当院では、患者さま中心の安全で質の高い医療を提供するために様々な取り組みを行っております。その取り組みの中から今回は、安全管理(安全対策・感染対策)、接遇についてご紹介いたします。

## 患者さまへの安全管理に伴う医療安全対策について

当院では、患者さまに信頼されて安心して医療を受けて頂けるよう医療安全を推進しています。全職員は胸にネームプレートをつけていますが、その他にだ円形で緑色のバッジ(図1)をつけている職員がいることをご存知ですか? バッジには「RM」とあり、その下に「医療安全担当者」と記載されています。この職員をリスクマネージャー(RM)と言い、86名のRMが配置され、医療事故を未然に防止すると共に、医療事故が発生した場合の被害を最小限に食い止めるための中心的な役割を担っています。診療の各部門の管理責任者が任命され、医療安全の業務に従事しています。もちろん、病棟や外来の診療現場における患者さまからの相談や苦情にも直接、対応しています。



(図1)

医療安全対策部では、日常の医療現場で患者さまに被害を及ぼすことはなかったが事前に誤りが訂正された「ヒヤリ・ハット」した事例、誤った行為を実施してしまったが結果的に被害が生じなかったことや重大な事故につながる可能性がある出来事など「インシデントレポート」として現場から報告してもらっています。これらを分析して、各委員会で安全管理の改善事項を提案するなどの業務を行っています。また、院内の全職員を対象にして安全管理のための教育・研修の実施、各リスクマネージャー及び各部門、各職種間の調整も行います。

### <医療安全対策部の主な業務>

- 1 医療の安全管理体制推進のための情報分析と業務改善
- 2 医療事故や医療トラブルに関する対応
- 3 診療情報の開示に関する窓口

職員一人ひとりに患者さまの安全を何よりもまず優先されるべきであるという安全文化を根づかせています。また、医療全体の質の向上を目指すと共に、職員が安全管理に関する認識を高め、病院全体としても医療事故防止に積極的に取り組み医療事故など未然に防ぐことを目指して体制を整えています。

(記:医療安全対策部 前多一美)

## 患者さまへの安全管理に伴う院内感染対策について

感染対策は患者さま中心の安全で質の高い医療の提供をする手段であり原点です。現在、感染症の領域は様々な変貌が見られます。大きく分けて院外からの侵入が危惧されるSARSや鳥インフルエンザ、麻疹、肺結核などの感染症と病院内で交差感染や日和見感染により発生する感染症です。感染症は予防することが大切であり、感染予防の基本は手指衛生(手洗い・手指消毒)です。施設内各所に手洗いのためのハンドソープとペーパータオルもしくはエアータオルの設置、また手指消毒のための速乾性擦式手指消毒剤(ゴージョ)が設置されています。医療行為前後に手指衛生の実施を基本としていますが、忘れていた職員を見かけましたら皆さんからも「手はきれいですか?」と一言声をかけて下さい。患者さまや家族からモニターされていると実施率があがります。また冬場は咳やくしゃみをしている人が目立ちます。特に医療施設内で咳をしている人は他の人に病気を移さないようにマスクを着用する必要があります。手指衛生やマスクの着用は私たち医療従事者だけでなく、患者さまにも実施していただきたい対策です。



「患者さま中心」つまり、患者さまと医療従事者が一緒に感染対策を行うことで感染を予防することができ、安全で質の高い医療の提供を目指しています。ご協力を心よりお願いいたします。  
(記:感染対策室 早瀬 満)

## 患者さまへの接遇等に伴う医事会計のサービス向上

以前より患者さまに対して、安全性の高い心のこもった医療を提供し、その側面から看護師・放射線師・薬剤師・栄養士・検査技師などが、患者さまに対する様々な病院サービスを提供してきましたが、時代の変遷とともに、必要とされるサービスも変わり、病院側に「ホスピタリティ」の概念が求められるようになってきています。ホスピタリティとは、「手厚いもてなし、歓待」を指し、相手の立場に立って行き届いたサービスを行うということでもあります。

私たち中央受付・会計では、患者さまの不安を少しでも取り除けるように笑顔での接遇を心掛

けております。更に会計においては、5分以内での請求書作成を目標とし、患者さまには可能な限りお待たせしないよう日々努力しています。

施設面では、予約患者さま用に自動受付機6台、支払い窓口の混雑を緩和するために自動支払機3台(カード使用可1台)を設置いたしました。

病院とは、傷つき病に悩む患者さまを癒す場です。古来より「医は仁術なり」というように、ホスピタリティの概念は医療の本質と言っても良いでしょう。私たちは、この基本を大切に、患者さまに快適なサービスを提供していきたいと考えております。  
(記:診療支援課 古府美知子)



あなたは身体のどこか、痛みを感じる場所は、ありませんか？  
まずは痛みの原因を知ることから治療は始まります。  
日頃身体のあちこちの痛みを悩んでいる方のための  
「痛みを解決する」コーナーです。

## 「坐骨神経痛 について」(その2)

### — 腰部脊柱管狭窄症 —



### 坐骨神経痛とは

前回のおさらいです。坐骨神経は、腰骨の中を走る脊髄神経から枝分かれして、お尻、太ももの後面を通り、ふくらはぎ、足先まで延びている神経です。したがって腰骨付近に病気があると、坐骨神経が圧迫刺激されて、坐骨神経に沿った痛み、すなわち、お尻から足に放散する痛みが生じます。これが坐骨神経痛です。この坐骨神経痛を引き起こす腰骨の病気の代表的なものには、前回取り上げた椎間板ヘルニアと、今回説明する腰部脊柱管狭窄症が挙げられます。

### 腰部脊柱管狭窄症

腰骨は年齢を重ねるうちに次第に変形し、腰椎の連結部分がずれたり、分厚くなったりします。こうした変化に伴い、腰骨の中の脊柱管という空間が狭くなってきます。すると脊柱管の中を通る脊髄神経の束が次第に圧迫されるようになり、それらの神経が伸びていく部分、つまり坐骨神経が通る太ももやふくらはぎの裏側に痛みやしびれを自覚するようになります。これが腰部脊柱管狭窄症による坐骨神経痛です。

この病気は、太ももやふくらはぎの裏側や側面に痛みやしびれなどを感じるだけでなく、「間歇跛行」と呼ばれる症状が出ることがあります。間歇跛行とは、歩いていると次第に両足がしびれてきて歩けなくなり、座って小休止すると、またしびれ感が改善して歩けるようになるものです。症状が進むと、50メー

トルほど歩くたびに、すぐしゃがみこんでしまうようになります。

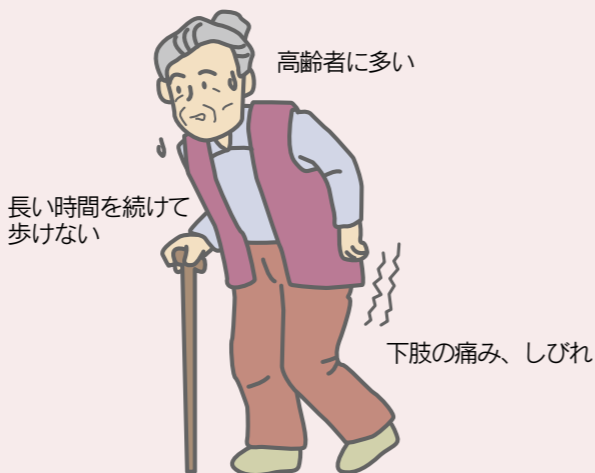
### 腰部脊柱管狭窄症の治療

片足の痛みやしびれ感が主な症状の場合には、通常、消炎鎮痛剤の内服や注射による各種療法が効果的です。しかし間欠跛行を生じるほどの痛み、しびれが両足に生じるようになりますと、手術で腰椎の一部を削って脊柱管を広げることが、最も有効な治療法となります。タレントの“みのもんだ”さんも、この病気で手術を受けて見事に社会復帰を果たしています。

当科では顕微鏡を使用した最小侵襲の手術を行うことにより、早期に離床が可能で、かつ術後の傷の痛みもかなり楽になるようになりました。

坐骨神経痛に悩む患者さんがおられましたら、一度整形外科を受診してください。

(記:整形外科 藤田 拓也)



## なっとく サプリ

サプリメントをシリーズで特集している  
今回のテーマはミネラル（無機質）です。

### ミネラル（無機質）とは？

ミネラルは、ごくわずかの量で身体の生理機能の調節を行っている栄養素です。また、体内ではつくることが出来ないため、食物から摂る必要があります。平成14年度における厚生労働省の国民栄養調査では、カルシウムの摂取量が、男性では20~39歳で、女性は15~39歳で少ないという結果がでています。

### 大切なミネラルバランス

ミネラルは多すぎても少なすぎても健康を維持するうえで好ましくありません。同時に、ミネラルバランスも大切です。現代の食生活では、柔らかく口当たりの良い食品が好まれる傾向から、加工した食品をとることが多く、ミネラルバランスをくずしやすくなっています。例えば、加工食品をとりすぎると、食品添加物（リン酸化合物）の影響でリンの摂取が過剰になり、カルシウムとリンのバランスがくずれてしまいます。

(例) リンのとりすぎ→カルシウムの吸収を阻害→骨を弱くする

### ミネラルとビタミンの協力

それぞれの栄養素は協力しながら、体内の機能を維持しています。微量栄養素のビタミンとミネラルも同様です。例えば、骨を作るためにはカルシウムが必要ですが、同時にビタミンDがなければスムーズに骨は作れません。このように、ミネラルとビタミンは一緒に働いてこそ、私たちの健康は約束されるのです。

### ミネラルの働きとは？

- カルシウム、リン、マグネシウムなど…骨や歯を作る
- 鉄、銅、マンガン、亜鉛など…たんぱく質と結びつき、筋肉、皮膚、血液などを作る
- カルシウム、リン、カリウム、ナトリウム、マグネシウムなど…血液や体液のpHや浸透圧を正常に保つ
- セレン…抗がん作用

### ミネラルが不足する原因は？

- 欠食（食抜き）や偏食
- 外食中心の食生活
- 加工食品のとりすぎ

### ミネラル剤利用上の注意

ミネラルは、ビタミンと比べると過剰症や中毒症が起こりやすいため、注意が必要です。特に、妊婦、乳幼児、肝臓や腎臓など内臓に疾患がある場合は、摂り過ぎを避けましょう。病気治療中にサプリメントを使用する場合は、医師に必ず相談することが大切です。

(記:栄養部 木村 律子)

